

立場から漢画芸術を理解せんとするものであつて、まず漢代芸術開花の基礎を、鉄器使用の普及による富の集積と商工業の股脈、そして文化の一般的向揚発展という歴史過程の一端、その具現として把握すべきことを論じている。そして、例えば画像石墓が多く見出される山東・南陽・四川などの地は、塩鉄の利によつて栄え、大商人・大地主・大官僚など豪門・富室の集つた地方でもあつて両者のあいだの関連を考へべく、このように漢画分布地域と当時の社会との關係を考へようとしている事なども面白い着眼点である。

言うまでもなく漢墓は、いわゆる統治階級のものであるから、そこに表現されるものは当然彼等の好みに応ずるものであるから、その内容を理解するためには、漢代の統治者階級がいだいた思想をかえりみる必要があるとして、本書ではさらに漢代思想とその芸術的表現との問題にまで深めて論を進めていることもあげねばならないが、前記沂南石室墓の報告書とともに、本書は漢代美術に関する專著として、中国学界を代表すべきものと言へるのである。

## 学界消息

### 史学研究会關係

史学研究会七月例会

七月五日(土)午後

「技術史の諸問題」

原始農耕について

前方後円墳の形態推移

技術史の意味

史学研究会九月例会

九月廿七日(土)午後

臨地講演 醍醐寺(三宝院・金堂) 日野法

界寺

(講師)

史学研究会十月例会

十月四日(土)午後

「現代史の諸問題」

新航路のバランス・オブ・パワー

中国の第一次世界大戦参戦について

第一次世界大戦と日本の参戦

波多野善大氏

井上 清氏

国史關係

讀史会七月例会 七月一二(土)

午後一時 於京大陳列館演習室

頼母子について 三浦 圭一

讀史会九月例会 九月一三日(土)

午後一時 於京大陳列館第二教室

上野 照夫氏

自由民権運動と農民

——群馬事件を中心として——

自由民権運動期の改進党

正倉院文書雜考

讀史会秋季見学旅行 一〇月一〇〜一四日

八幡製鉄所—箱崎宮—九州大学—觀世音寺

—太宰府—長崎市内(大浦天主堂・出島・

崇福寺・爆心地址・博物館・県立図書館・

代官管理所など) —雲仙にて解散。参加者

は小栗田・赤松・柴田教授、岸助教授、

上横手講師ほか二〇名。解散後、有志は三

班に分れ熊本柳川方面・佐賀方面への史料

採訪、筑紫古墳群の見学等を行った。

## 東洋史関係

旧制大学院研究発表会七月例会

七月十二日(土)

於陳列館会議室

元代の洞冶(課)について

井ノ崎隆興

贓刑について

中谷 英雄

同九月例会

九月二十日(土)

於陳列館会議室

雍正帝の宗教政策

塚本 俊孝

沖繩の近況

中谷 英雄

同十月例会

十月十一日(土)

於陳列館会議室

蜀漢政權の構造

狩野 直禎

唐代均田制の一断面

西村 元佑

東方学術講座

主催 東方学術協会

於京都毎日会館

七月二十三日(水)

現代中国の宗教

塚本 善隆

中国の水利事業

速水頌一郎

七月二十四日(木)

タイ国を訪ねて

藤岡 喜愛

インドみたまま

木村 康一

## 人文地理学関係

人文地理学会 第27回例会

九月二十日(土)

兵庫地理学協会と共催  
午後西宮市市民会館

原始民族の集落と土地制度 石川 栄吉

西宮附近の歴史地理

渡辺 久雄

なお研究発表後、アサヒビールの工場見学  
を行つた。

## 考古学関係

京都市右京区嵯峨野大覚寺所在古墳の調査

六月二日—五日。京都大学小林行雄講師

指導のもとに考古学研究室員、平安高校生

が参加した。主体の横穴式石室は全長約一

五メートル、原状をかなりうしなつていた

が、玄門付近から子持須恵器、組合石棺片

などが出土した。

京都市右京区北野白梅町北野廃寺の調査

六月十九—二十二日、七月十六・七日。道

路工事のため寺址の一部が破壊されたの

で、京都大学考古学研究室により応急調査

をおこない、古瓦、須恵器、土師器、三彩

陶片などを採集した。

京都市東山区山科大宅鳥井脇町大宅廃寺の調

査

八月十一日—九月二十五日。名神間高速

道路設置にともなう事前調査として寺域の

一部を発掘した。金堂と推定される建物  
と、その北方の建物の二つの遺構を明らか  
にしたが、出土瓦によつてこの寺が白鳳か  
ら平安時代にかけて存したことがしられ  
た。ほかに南北の同一軸線上にある建物址  
の一部、および横穴式石室一基、中世墳墓  
などが発見されている。調査には京都大学  
有光教一教授、考古学研究室員、奈良国立  
文化財研究所坪井清足氏など多数が参加し  
た。